

ローコスト導入

会計士業界においては会計士制度及び試験制度の見直しによって、会計士の供給過剰がおきています。一部の大手監査法人では、人員過剰により赤字決算になるなど収益の急増が経営課題となっています。

一方で2009年4月以降開始したJ-SOXの導入にあたっては、多くの企業その導入にあたって外部専門家に対する莫大な委託費を支払っています。私どもは、そのJ-SOXにより整備された内部統制の一部のみが実際に有効な内部統制の構築につながったのではないかと考えています。

今回のIFRSの導入にあたっては、私どもは業界としてそのような結果をもたらしてはいけないものと考えています。会計基準の変更は、経営指針の変更であり、社内で消化できるものでなくてはなりません。その中で一定の報酬を会計士及び監査法人に支払って、その導入を達成できるはずです。

1. プロジェクトにかかるコスト
2. ローコスト実現のための対応方法
3. 当社サービスに係る料金体系

1. プロジェクトにかかるコスト

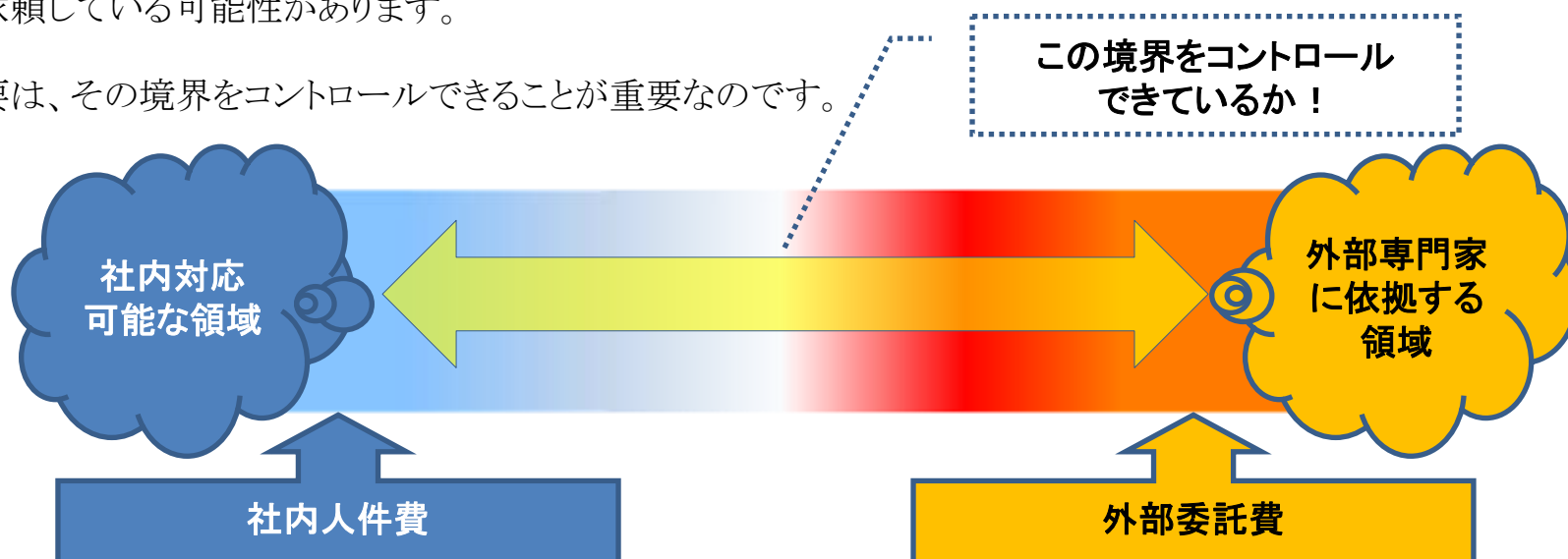
IFRS導入のためのプロジェクトに関しては、プロジェクト管理、基準差異の検討、適正な会計処理の検討、監査法人との協議、会計処理のための内部統制の構築、仕訳の作成、表示科目の組み換え、注記等の作成など、様々なステップを踏む必要があります。

この大前提として、IFRS導入は財務諸表の作成であるため、社内で全て完結することができるはずですが、社内で不足している人員、知識、ノウハウを補うため外部専門家に委託することがあります。

外部専門家の報酬は、基本的に工数で見積られることが多いため、委託領域が多いほどコストが高くなります。

下記で社内対応可能な領域を増やすことによってローコストが実現可能です。これについて「社内で作業すればコストがかからないに決まっている。それができないから困っているんだ。」というご意見もあるかと思いますが、実際には、社内対応領域と外部専門家領域の境界が明確でなく、必要以上の作業を依頼している可能性があります。

要は、その境界をコントロールできることが重要なのです。



2. ローコスト実現のための対応方法

それでは、上記の領域の区分を把握し、コントロールするためにはどのようにすればよいのでしょうか。

答えは、IFRS導入に関する全体像、論点の大小、作業工程のイメージなどを、社内のプロジェクトマネジメントをする部署が明確に把握することです。

当社は、このような会社主導のプロジェクトが遂行できるように、社内マネジメントを支援致します。その結果、外部専門家に過度に頼らないローコスト導入が実現できるのです。

作業領域のコントロールのため、知っておくべき事項

- ・ IFRS導入までの全工程の概観
- ・ 問題となる会計処理の性質
- ・ 必要な会計処理の影響額の大小
- ・ 会計処理のために整備すべき事項
- ・ システム化すべき範囲の把握 など

作業の実施

- ・ 仕訳作業
- ・ 必要資料の作成など



当社の主な
支援領域

適切なコントロールにより最小化し、
できる限り社内
で対応

3. 当社サービスに係る料金体系

当社のIFRS導入支援サービスの料金体系は下記のとおりになります。

種類	内容	時期	体系
IFRS簡易財務諸表作成サービス	IFRS導入の初期段階として、簡易的にIFRS適用したとして財務諸表を作成する。	検討初期	概ね 2,500,000円程度
IFRS導入に関する顧問契約	IFRS導入を前提として情報交換やご質問等に対応	導入期間	月額固定報酬
IFRS導入総合支援サービス	IFRS導入のためのプロジェクト管理から総合的に支援を展開	導入期間	時間連動報酬 又は、 関与時間を概ね定めた固定報酬

導入のための報酬については顧客企業様の予算等の実情に応じてご提案致しますので、直接ご相談下さい。